

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立鶴見橋中学校

令和8年3月

大阪市立鶴見橋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

現状と課題

長期欠席者や不登校生徒の割合は、令和6年度 長欠率17.8%、不登校率5.4%であり、大阪市平均より低いですが、本校での大きな課題の一つである。活動しやすい場として、スタディールームの効果的な活用と利用計画を整理し、生徒を多様な側面からサポートできる体制を充実させ、本校の長欠生徒および不登校生徒の減少につなげる。また、これまで行ってきた本校の人権教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にしている教育活動を展開し、自尊感情の育成に努める。

全国学力・学習状況調査結果等から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない現状が見られる。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。そこで、家庭学習の充実を図り、学びの基本的な生活習慣を、生徒・保護者・教職員が一体となって取り組む風土を作る。

どのような状況下においても、学びを継続させる環境を整える。

「誰ひとり取り残さない学びの学校」を作るため、教員の資質向上を図り、校内研修を計画的に実施し、教員が学び続ける場をつくる。

令和6年度末における時間外勤務時間は改善傾向にある(大阪市と比較しても優位)。しかし、未だ課題が残る状態である。そこで、管理職が率先して範を示し、働きやすい職場環境づくりを推進していく。そのためにも、校長として教育理念や学校運営についての考え方を明確に伝え、働きやすい環境づくりに寄与する。

これらのことを踏まえ、次の3点について学校課題として重点的に取り組む。

- ① 生徒一人一人に寄り添った不登校要因への対応および学習機会の確保
- ② 『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にしている教育
- ③ 誰ひとり取り残さない学びの学校を作るため、教員と生徒が学び続ける場と風土を醸成する

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

(R7年度 100%)

○令和7年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

(R7年度 92%)

○令和7年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を令和3年度と比較し減少させる。

(R3年度 13.4%) (R7年度 8.3%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均の割合をいずれの学年も0.8以上にする。

(R7年度 3年 0.66 2年 0.62 1年 0.63)

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合をいずれの学年も50%以下にする。

(R7年度 3年 70.5% 2年 68.6% 1年 63%)

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計点について、対全国の1.1倍にする。

(R7年度 男子1.00倍 女子1.03倍)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において学習者用端末を毎日使用した生徒の割合を100%にする。

(R7年度1月末時点 36.2%)

○教員の勤務時間の時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下を満たす教職員の割合を50%以上にする。

(R7年度1月末時点 60%)

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合、78%以上にする。(R7年度 73%)
- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を75%以上(R6年度 73%)にする。(R7年度 78%)
- 年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R6年度 不登校5.4%)より減少させる。(R7年度 8.3%)
- 生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。(R7年度 96%)
- 年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を70%以上にする。(R7年度 78%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で3ポイント向上させる。

【現2年】 R 6 (67.9%) R 7 (67.6%)

【現3年】 R 5 (61.0%) R 6 (67.0%) R 7 (65.7%)

- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で3ポイント向上させる。

【現2年】 R 6 (58.4%) R 7 (50.5%)

【現3年】 R 5 (58.7%) R 6 (60.2%) R 7 (70.5%)

- 大阪市英語力調査 CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を30%以上(R6年度 25.7%)にする。(R7年度 28.9%)

- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。(R7年度 55%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある」について肯定的な回答の割合を前年同様(R6年度 92%)に維持する。(R7年度 97%)
- 授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が年間65%以上になるようにする。(R7年度1月末時点 36.2%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。(R7年度1月 60%)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。
(R7年度1月末時点 86.7%) (26/29名)
- 放課後の自主学習会、ならびに長期休業中の自主学習会を年間100時間以上実施する。
(R7年度12月 172.5時間(のべ203人利用))

【その他】

- 学校ホームページへのアクセス数について昨年度実績(R6年度 20658件)を上回る。
(R7年度 2月11日時点 21788件)

3 本年度の自己評価結果の総括

安全・安心な教育の推進

- ・「いじめ」に対する生徒の意識の向上について、目標を達成することができた。
- ・不登校の在籍率、改善率について、昨年度よりも在籍率は増加したが、改善率は向上している。今後も生徒、保護者に寄り添った支援を続けていく。
- ・「命や人権の尊さ」に対する生徒の意識の向上については、目標を達成することができた。取り組みは充実している。事前、事後の意義付けをさらに重視していく。
- ・「自分には、よいところがあると思いますか」については、目を達成することができた。今後も生徒の自尊感情を高めていく教育の充実をさらに進めていく。
- ・支援教育研修、巡回相談での生徒理解については、計画通り取り組むことができた。今後は、令和10年度の校内通級指導への体制づくりに取り組んでいく。
- ・SWPBS（学校規模ポジティブ行動支援）の取り組みは継続し、さらに良いものにしていく。

未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・チャレンジテスト国語、数学の平均点の対府比を同一集団で経年比較については、3年生の数学は向上させることができた。府平均の7割に満たない生徒の割合については、3年生は改善したが、2年生は改善させることができなかった。今後も授業改善、学習環境改善を基本とし、基礎的学力の向上に取り組む。
- ・英語力調査 CEFR AI レベルの30%の目標は達成できなかったが、年々向上している。
- ・「学校の授業はわかりやすい」については、目標を達成させることができた。授業に対する意欲・興味関心については、持たせることができていく。
- ・「運動やスポーツが好き」について、目標は達成できなかったが、学年の枠を超えて全校生徒で体育的行事に意欲的に取り組めることができた。
- ・次年度は家庭学習の充実・定着に取り組む。

学びを支える教育環境の充実

- ・「授業で ICT を毎日使用」について、教員の使用はできている。今後は、生徒が主体となって ICT 機器を使用した共同学習への授業スタイルの改善に取り組む。同時に、従来の生徒がノートを書くなどの「書く」ことも重視し、バランスをとった学習指導に取り組む。
- ・教職員の時間外勤務については、改善することができた。学校行事等の見直し、会議の削減、定時勤務退勤日の設定などにさらに取り組む。
- ・学力面、生活指導面の両面でのデータ活用をさらに進める。改善状況の見える化を図る。学力面については、各学力調査結果（対平均比 平均の7割比の経年化比較変化など）生活指導面については、学校評価アンケート結果、アセスのデータ項目、遅刻数などの集計での経年変化を活用していく。

大阪市立鶴見橋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合、78%以上にする。(R7年度 73%)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7年度 78%)</p> <p>○年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R6年度 不登校5.4%)より減少させる。(R7年度 8.3%)</p> <p>○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。(R7年度 96%)</p> <p>○年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答する生徒の割合を70%以上にする。(R7年度 78%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】生活指導部</p> <p>○5月、7月、12月、2月に全校生徒に向けていじめのアンケートを実施し、いじめについての調査を行う。</p> <p>○年に1度、全校生徒に向けて「いじめについて考える日」を実施し、いじめは絶対にしてはいけないことを再認識させる。</p> <p>○生徒が学習端末を使用し、毎日投稿した際に「心の天気」を入力することを徹底することで、日々の些細な変化に気づくことができるようにする。</p>	A
<p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合、78%以上にする。(R7年度 73%)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7年度 94%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】生活指導部</p> <p>○外部講師からの遅刻不登校生徒に対する具体的なアドバイスを聞き、実践する。</p> <p>○不登校生徒が活用しやすいようにスタディールームを整備し、活動や取り組みを行う。</p>	B
<p>指標</p> <p>○年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度(R6年度 不登校5.4%)より減少させる。(R7年度2学期末 8.3%) 10人(1年3人 2年4人 3年3人)</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】健康教育部 ○「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう学年ごとにカリキュラムを作成し、授業力向上の研修を図る。</p> <p>指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。(R7年度 96%)</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】人権教育主担 ○自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を、学校全体として年3回(平和登校日・人権集会・人権作文発表会)以上実施する。</p> <p>指標 ○生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。(R7年度 96%)</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】人権教育主担 ○自分たちの地域や将来について考える取組を、地域の方と学校が連携して毎週1回(火・木)以上実施する。</p> <p>指標 ○生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。(R7年度 79%)</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】(ユネスコC) ○週1回、ユネスコタイム(朝鮮問題研究会・多文化学級・同和教育・支援教育)に取り組み、国際理解教育を深め、国際社会を生き抜く力を育む。</p> <p>指標 ○生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。(R7年度 85%)</p>	B
<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】支援教育C ○支援教育に関する校内研修を年1回以上実施する。 ○支援教育の巡回指導を年1回以上活用し、個別の支援内容の共有を図る。</p> <p>指標 ○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。(R7年度 97%) ○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。(R7年度 93%)</p>	A
<p>取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】エビデンス学校改革 ○学校規模ポジティブ行動支援の考えに基づき、目ざすべき生徒像「鶴見橋中3つのT」を見直し、生徒及び教員へのフィードバックを行う。</p> <p>指標 ○生徒対象のアンケートの「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合を70%以上にする。(R7年度 78%)</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

6月、7月、9月、10月、12月、1月、2月に全校生徒に向けていじめのアンケートを実施し、いじめについての調査を行った。5月に全校生徒に向けて「いじめについて考える日」を実施し、いじめは絶対にしてはいけないことを再認識させた。生徒が学習端末を使用し、毎日投稿した際に「心の天気」を入力することを徹底することで、日々の些細な変化に気づくことができるように継続して声かけを続ける。

取組内容②

継続して外部講師からの遅刻不登校生徒に対する具体的なアドバイスを聞き、実践することができた。不登校生徒が活用しやすいようにスタディールームを整備している。昨年度と比べて1学期間の不登校生徒数は増加した。

取組内容③

生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は96%であった。「いのちの教育」年間計画を策定し、それに基づき学年ごとに授業を実施することができた。

取組内容④

生徒対象のアンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は96%であった。様々な取組を通して、命や人権について考える機会を設けることができた。

取組内容⑤

生徒対象のアンケートで、「将来の進路や生き方について考えたことがある」について肯定的に答える生徒の割合は79%であった。様々な取組を通して、地域や将来について考える機会を設けることができた。

取組内容⑥

生徒対象のアンケートで、「様々な国や文化について学んだことがある」について肯定的に答える生徒の割合は85%であった。ユネスコタイムの取り組みによって、国際理解について考えを深める機会を設けることができた。

取組内容⑦

教職員対象のアンケートで「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合が97%であった。校内研究授業を通して授業方法について検討・研修する機会を設けることができた。

○保護者対象のアンケートの「学校は、学習のつまずきによく対処してくれている。」について、肯定的な回答の割合が93%であった。放課後の学習会や個別の学習支援を通して学習のつまずきに対処することができた。

取組内容⑧

生徒対象のアンケートで、「自分にはよいところがあると思う」について肯定的な回答の割合は78%であった。学校行事で生徒に役割を与えることを通して、自分自身のよさに気づくことができる機会を多く設けることができた。

次年度への改善点

取組内容①

「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を増やすために行事や取り組み内容を見直し、「楽しい」と感じるように取り組み内容を改善していく。

取組内容②

SSR を活用し今年度に比べて不登校生徒の割合を減少できるように取り組む。

取組内容③

来年度も「いのちの教育」年間計画を策定し、命の大切さについて考えることができる取り組みを学年の実態に応じて進めていく。

取組内容④

来年度も様々な取り組みを通して「命や人権の尊さ」について考える取り組みを進めていく。平和人権登校日は広島から講師を招き被爆体験伝承講話、芸術鑑賞では太鼓の演奏と皮革に関わる人権講話を計画中である。

取組内容⑤

来年度も継続して、ゆ～とあいや NPO のフェアロード、大阪公立大学の学生ボランティアと連携して、地域や将来について考える取り組みを進めていく。

取組内容⑥

来年度もユネスコタイムをはじめとした様々な取り組みを通して、国際理解について考えを深める活動を行っていく。

取組内容⑦

来年度も校内研究授業を通して授業方法について検討・研修する機会を設けていく。また、学習のつまずきの対処については、放課後の学習会や個別の学習支援の取り組みを継続していく。

取組内容⑧

来年度も学校教育活動全体を通して、生徒一人ひとりが自分のよさに気づくことができるように様々な機会を設けられるようにしていく。

大阪市立鶴見橋中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で3ポイント向上させる。</p> <p>【現2年】 R 6 (67.9%) R 7 (67.6%)</p> <p>【現3年】 R 5 (61.0%) R 6 (67.0%) R 7 (65.7%)</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より百分率で3ポイント向上させる。</p> <p>【現2年】 R 6 (58.4%) R 7 (50.5%)</p> <p>【現3年】 R 5 (58.7%) R 6 (60.2%) R 7 (70.5%)</p> <p>○大阪市英語力調査 CEFR AI レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を30%以上(R6年度 25.7%)にする。(R7年度 28.9%)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上(R6年度 75.0%)にする。(R7年度 55%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】国語科</p> <p>○読解力向上教材や新聞等を活用し、言語能力の向上を図る。</p> <p>○漢検を全校で実施する。</p> <p>○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を73%以上にする。(R7年度 70.1%)</p> <p>○漢検において、5級の合格率を昨年度より向上させる。(R6年度 38.9%) (R7年度 42.9%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない 学力の向上】数学科</p> <p>○数学科の授業において反復した演習により、基本的事項の定着を図る。</p> <p>○生徒が主体的に ICT を活用した授業へ取り組む。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7年度 70.1%)</p>	

<p>○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。(R7年度 72.4%)</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】英語科 ○GTECを実施する。また、それらの取組の対策を実施し、基礎学力の向上を図る。 ○主体的に授業に取り組むことができるようICTを活用する。</p>	
<p>指標 ○大阪市英語力調査CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を30%以上(R6年度 25.7%)にする。(令和7年度 28.9%) ○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。(R7年度 60.9%)</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】校内研修主担 ○すべての教職員が年1回以上の研究授業を行い、相互参観、指導助言をすることで授業力向上を図り、生徒がわかりやすい授業を目指す。</p>	B
<p>指標 ○生徒対象アンケートの、「授業はわかる」に対する肯定的回答の全教科の平均を78%以上にする。(R7年度 83%)</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】学力向上推進担当 ○朝の学習、モジュール授業、放課後学習に全校で取組み、学習習慣を身につけさせ、基礎的学力を向上させる。</p>	
<p>指標 ○チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 (R6年度 2年 73.0%) → (R7年度 3年 70.5%) (R6年度 1年 60.6%) → (R7年度 2年 68.6%) (R7年度 1年 63.0%)</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】1年2年3年学年主任 ○縦割りで行う球技大会をはじめとして、各学年で3時間以上の体育的行事に取り組む。</p>	
<p>指標 ○生徒対象アンケートの、「運動やスポーツすることが好きである」に対する肯定的回答の全学年の平均を80%以上にする。(R7年度 81%)</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	

取組内容①

生徒対象のアンケートで、「国語の授業はわかる」に対して肯定的な回答の生徒の割合が70.1%、と目標に近い数値を残すことができた。しかし、「好き」という質問に対しては否定的な回答をする生徒が半数以上に上るため、今後は、楽しく興味を持てる授業づくりをしていきたい。

取組内容②

生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は70.1%、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は72.4%であり、目標を一部達成できている。反復した演習により基礎学力の定着を図ることができた。数学をより身近なものにできるように実生活と結びつけながら考えられるようにしていきたい。

取組内容③

生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合が60.9%であり、目標を達成できているものの、学年によって差があるのが課題である。今後においては全学年が英語に対して苦手意識を克服できるように生徒の学力に応じた支援を踏まえた授業展開ができるように取り組んでいきたい。

取組内容④

生徒対象のアンケートで、全教科の「授業が分かる」の平均が83%と目標値を達成した。教科によって数値の差があるため、今後においても授業力向上を図り、生徒が分かる授業を目指して取り組んでいきたい。

取組内容⑤

「チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合」は、3年生は昨年(73.0%)よりも70.5%と減少した。2年生は昨年(60.6%)よりも68.6%と増加した。モジュールやタブドリを通じて今後も基礎学力の定着を図っていく。

取組内容⑥

生徒対象のアンケートで「運動やスポーツをすることが好きである」に対する肯定的に回答する生徒の割合は81%と目標を達成することができた。3学年合同のレク大会や体育大会の学年演技の練習、各学年ごとにレクリエーションを行ってきた。

次年度への改善点

取組内容①

授業において反復学習を行うことによって基礎学力の定着を図ることはできている。しかし、学力差も大きいため、読解力向上教材の活用による学力の定着を目指し、個に応じた語彙力、漢字力の向上を図っていく。

取組内容②

反復した演習により基礎学力の定着を図ることができている。一方で、学力差も大きく、数学を得意としている生徒に対してもアプローチが必要であると考えられる。さらなる学力アップを図るためにも、個に応じた授業づくりや習熟度別の授業なども行っていきたい。

取組内容③

GTECにおいてCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合の目標を達成することができなかった。基礎力の向上ならびに学力差を縮めるために生徒の学力に応じた指導を行っていきたい。

取組内容④

来年度からの新時程の元で授業内容の精選を行ったうえで、全教員が研究授業を行い、相互参観、指導助言を行うことによって授業力向上を図っていく。

取組内容⑤

来年度からの新時程の元で国数英の基礎学力の向上、タブドリをさらに多くの教科で活用していく。

取組内容⑥

生徒の希望に応じて他学年と連携し、今後も体育的行事を計画的に実施していきたい。

大阪市立鶴見橋中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある」について肯定的な回答の割合を前年同様(R6年度 92%)に維持する。(R7年度 97%)</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習用端末を活用した日数が年間65%以上(R6年度 9.5%)になるようにする。(R7年度 1月末時点 36.2%)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。(R6年度 57.0%) (令和7年1月末時点 60%)</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上(R6年度 データなし)にする。(R7年1月末時点 86.7%)</p> <p>○放課後の自主学習会、ならびに長期休業中の自主学習会を年間100時間以上(R6年度 データなし)実施する。 (R7年度 12月末で 172.5時間(のべ 203人利用))。</p> <p>○学校ホームページへのアクセス数について、昨年度実績(R6年度 20658件)を上回る。 (R7年度 21788件 【16552件(4月1日~12月8日)+5236件(12月9日~2月11日)】)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 校内研修主担・教務部 ICT担当</p> <p>○校内研修支援事業を活用し、全教科で生徒が主体的にICTを活用した研究授業を年間1回以上実施する。</p>	A
<p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「授業方法等について、検討・研修する機会がある。」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。(R7年度 97%)</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】教務主任</p> <p>○各種学力調査データを教科担当が分析し、PDCAサイクルを回す。</p>	B
<p>指標</p> <p>○教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」について肯定的な回答の割合を80%以上にする。(R7年度 100%)</p>	

<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】管理職 ○サポーターを組織的に活用し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保する。</p>	B
<p>指標 ○毎月の45時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合を50%以下にする。 R7年度…4月28%、5月20%、6月24%、7月12%、8月0%、9月29%、10月21%、11月21%、12月12%、1月29%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】管理職 ○教職員・サポーターを組織的に活用し、ホームページの更新を行う。</p>	A
<p>指標 ○学校ホームページへのアクセス数について、昨年度実績（R6年度 20658件）を上回る。 (R7年度 21788件 【16552件（4月1日～12月8日）+5236件（12月9日～2月11日）】</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①校内の授業研究会を年3回予定（6教科実施予定）し、各教科で生徒の多様性に対応しICTを活用した研究授業を行い、討議会も行っている。校内授業研究推進期間を設け全教員が研究授業を行っている。</p> <p>②全国学力・学習状況調査の結果や西成区学力分析テスト・チャレンジテストなど校外テストの結果などのデータを全教員で共有し、分析している。指標である教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」の回答も、肯定的な回答の割合が100%だった。</p> <p>③毎月の45時間以上の時間外勤務時間の教職員の割合は、R7年度…4月28%、5月20%、6月24%、7月12%、8月0%、9月29%、10月21%、11月21%、12月12%、1月29%であり、R6年度よりも減少することができた。サポーターを組織的に活用することができ、定時（17時）に退勤する教職員も増加傾向である。</p> <p>④教職員・サポーターを組織的に活用し、ホームページの更新を行い、2月11日（火）時点でのアクセス数は、21788件である。7月以降、生徒の写真を撮影する機器が学校保有の機器のみとなり、写真の撮影が難しい状況ではあるが生成AI等を活用し、随時更新作業を行い、関心を高めることができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①校内授業研究会の実施時期を検討し、各教員に負担になりにくい時期に設定する。また校内授業研究推進期間については、より多くの教員が参観できるよう調整していく。</p> <p>②12月のアンケートにおいても、指標である教職員対象のアンケートの「学習指導、生徒指導等の改善にデータを活用している」の回答も、肯定的な回答の割合が100%だった。西成区学力分析テスト・チャレンジテストなどの外部のテストの結果も、過去のデータとも比較し検証を行った。</p> <p>③行事や会議を精選し、教職員が子どもたちに向き合う時間を確保していく。また、来年度のサポーターの人材の確保が課題であり、次年度も常勤に近い勤務でのサポーターを複数名配置できるようにしていく。</p> <p>④生徒の写真を撮影する機器（学校保有の機器のみ撮影可能）を充実させ、教職員・サポーターを組織的に活用し、更新の頻度をあげていく。引き続き、生成AI等を活用し関心を高めていく。</p>	

大阪市立鶴見橋中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容【各教科】 【国語】国語科 ○漢検を全校で実施する。 ○新聞や読解力向上教材を活用し、言語能力の向上を図る。 ○ICTを活用し、自主学習の教材を充実させて、表現力や判断力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「国語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を73%以上にする。(R7年度 70.1%) ○漢検において、5級の合格率を昨年度より向上させる。 (R6年度 38.9%) (R7年度 42.9%)	
【社会】社会科 ○ICTを活用し、多くの資料を提示することで理解しやすい授業を行う。 ○授業の最初に「最近のニュース」の動画を流し、世界や日本の出来事に対する興味関心を向上させる	C
指標 ○令和7年度12月実施予定の学校評価「生徒アンケート」における「社会の授業はわかりやすい」の設問について、すべての学年・教科における肯定的平均回答率を80%以上にする。(R7年度 74.7%)	
【数学】数学科 ○ICTを活用し、数学への興味・関心を高める。 ○基本的事項の習得に向けて、プリントなどを活用し反復して演習を行う。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「数学の授業はわかる」に対する肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7年度 70.1%) ○生徒対象のアンケートで「数学の授業は楽しい」に対する肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R7年度 72.4%)	
【理科】理科 ○実験や観察などの体験的な授業を積極的に行い、基礎知識や実験技能の向上を図る。 ○スライドやデジタル教科書などの視覚教材を活用し、基礎知識の向上を図る。 ○夏の自由研究やパソコンを用いた調べ学習など学習を深める取り組みを行い、思考力や判断力、表現力の向上を図る。	B
指標 ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。(R7年度 78.2%)	
【英語】英語科 ○ICTを活用し、音声による主体的で対話的な活動を設け、英語に対する興味・関心を高める。	

○語彙力と文法力を高め、英文を早く正確に読む思考力・判断力をつける。	
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。(R7年度 60.9%)</p>	B
<p>【音楽】音楽科</p> <p>○デジタル教科書等のICTを活用し、音楽に対する興味・関心・意欲を高める。</p> <p>○楽曲理解を深める活動を行うことで、個々の思考力・判断力を育て、考えたことが表現力を高めることに繋がる授業計画を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <p>○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」の設問について、すべての学年・教科における肯定的平均回答率を80%以上にする。(R7年度 80.4%)</p>	
<p>【美術】美術科</p> <p>○グループワークや発表の機会を設け、主体的・対話的な授業をめざす。</p> <p>○ICT 機器の活用や鑑賞の授業を充実させ、生徒の興味・関心を高め、美術活動に対する意欲を伸ばす。</p>	A
<p>指標</p> <p>○各単元にて1回以上、グループワークや発表を行う。</p> <p>○授業アンケートの「授業を受けて、その内容に興味関心や意欲をもつようになっていますか」の項目にて、「そう思う」「大体そう思う」の割合を80%以上にする。(R7年度 80%)</p>	A
<p>【保健体育】保健体育科</p> <p>○体づくり運動を体育の授業で毎時間、継続的に取り組むことで、基礎体力の向上を図る。</p> <p>○週に1回以上、試合で仲間と共に考え、協力して取り組める機会を作る。</p> <p>○生徒が安全に取り組めるように、準備運動を毎時間徹底し、学習環境の整備をする。</p>	A
<p>指標</p> <p>○興味・関心・意欲の向上に対する肯定的な回答を70%以上にする。(R7年度 男子94.4% 女子87.9%)</p> <p>○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答を85%以上にする。(R7年度 83.9%)</p>	
<p>【技術家庭】技術科家庭科</p> <p>○情報モラルや情報リテラシーについて取り組む。</p> <p>○家庭生活の衣食住について興味を持ち、家族と話せるように取り組む。</p> <p>○SDGsのエネルギー分野での知識を深める。</p>	B
<p>指標</p> <p>○「授業内容が分かる」の回答を75%以上にする。(R7年度 技術75.9% 家庭79.3%)</p>	

	年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートでは、「国語の授業はわかる」の設問において、全体においては70.1%であるため目標の73%に達することはできなかった。 ○漢検の5級合格率が42.9%と昨年度よりも12.9%上昇した。 ○基礎学力の定着が最優先になっている現状があり、吹きこぼし対策も考える必要がある。そのうえで、学習内容を精選した授業を展開していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○令和7年度12月実施予定の学校評価「生徒アンケート」における「社会の授業はわかりやすい」の設問について、すべての学年・教科における肯定的平均回答率74.7%であった。7月より3.5%上昇したが、未達成であった。 ○2学期以降、授業と関連する動画や様々な資料を提示しながら授業を展開したが、生徒に伝わりきっていない場面があった。さらにゆっくり、より丁寧にわかりやすい授業を展開していく。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートで「数学の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は70.1%、「数学の授業は楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合は72.4%であった。 ○反復した演習により基礎学力の定着を図ることができた。数学をより身近なものにできるように実生活と結びつけながら考えられるようにしていきたい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートで「理科の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は78.2%だった。 ○観察・実験など適宜取り入れることで、学習内容を理解しやすい授業を展開することができた。 ○学習内容をより深めるため、従来型の学習内容を教え込む形式の授業ではなく、議論や実験などを通して内容を探求していけるような授業づくりを行っている。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートで「英語の学習はわかる」に対して肯定的に回答する生徒の割合は60.6%だった。 ○学年別では大きな差がみられるため、学習内容の定着のために授業の流れを統一し、生徒が安心感をもって授業に臨むことができるようにしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートで「音楽の授業はわかる」の設問について、肯定的に回答する生徒の割合は1学期85.1%、2学期80.4%で達成できた。 ○デジタル教科書などのICT機器を用いて、今以上に興味・関心を高める授業を行うようにしていく。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケートで「興味・関心・意欲の向上」に対する肯定的な回答は80% ○相互鑑賞やグループでの話し合いや発表の時間を設けた。また、生徒用端末にてデジタルコンテンツ等の利用も行った。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末の生徒対象の授業アンケートで ○「興味・関心・意欲の向上」に対する肯定的な回答は91.2%（男子94.4%、女子87.9%）であった。 ○「授業の内容が分かるようになっていきますか」に対する肯定的な回答は83.9%であった。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒対象のアンケートで「授業はわかる」の設問について、すべての学年で肯定的平均回答率は77.6%（技術科75.9%、家庭科79.3%） ・調理実習や作品の作成など、創意工夫できる課題を実施することができた。 ・今後も生活に結びつけながら、探求できる授業を展開していく。